

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

3月13日から16日まで開催される欧洲障害シーズンのクライマックス「エルトナム・ゴールドC(芝26F 70Y)」約5294戻で、目下前売り1番人気に推されているマイトバイト(セ9、父スコープオーン)が、今月のこのコラムの主役である。

12月26日にケンプトンで行われたこの路線における暮れの大一番G1キンギングジヨージ6世(芝24F)を完勝した段階で、前売り2番人気に浮上した後、12月29日に愛国レペーズタウンで行われたG1クリスマスチャイブ(芝24F)で、馬サイジングジョン(セ8、父ミッドナイトレジェンド)がよもやの7着に大敗。ゴールドC前売り1番人気の座から陥落する事になり、入れ替わりで本命の座に就いたのがマイトバイトだった。

父スコープオーン(その父モンジョー)は、G1セントレジャー(芝14F 115Y)を含む3つのG1を制した後、08年に愛国の中越スルハイドスタッフで種牡馬入り。マイトバイトはその初年度産駒の一頭となる。本馬以外にも、16年のG1ヘラルドチャンピオンノーヴィスハードル勝ち馬ドントタッチイット、北米で16年のG1ロンサ

ムグローリーハードルなど2つのG1を制しているスコープオーンサーらを輩出している。

母ノツテッドミッジはポイントトゥボイント競走で1勝を挙げた馬で、マイトバイトはその2番仔。初仔のビートザット(セ10、父ミラン)もエイントリーのG1セフトンノーヴィスハードルの勝ち馬である。

ハードルで4戦3勝の成績を残した後、16/17年シーズンからスティーブルチャイブを飛び始めたマイトバイト。転向2戦目でスティーブルチャイブ初勝利を挙げた後、次走はいきなりケンプトンのG1コートスター(芝24F)で、馬身差をつける快勝。今季初戦となつたエイントリーのG1マイルドメイノーヴィスチャイブ(芝25F)では、ウイスパーに2

年連続でG1を制覇した。サンダーウィンのLRインターメディエイトチャイブ(芝24F 37Y)を8馬身差で制した後、G1キンギングジョン6世(芝24F)で3度目のG1制覇を果したのである。

すなわち、17年2月にドンカスターの条件戦(芝23F 24Y)は最後まで無難に飛越をこなして大差勝ちした後に迎えたのが、チャルトナム・エフエスティヴィアルのG1RSAノーヴィスチャイブ(芝24F 80Y)だった。第2障害飛越後に先頭に立ったマイトバイトは、後続に10馬身以上の差をつけて最終障害を迎え、ここは無事にクリア。ところが、飛び越えた途端に右に大きく寄れ、半ば走るのをやめてしまい、あつと言つ間にウ

ムグローリーハードルなど2つのG1を制しているスコープオーンサーらを輩出している。

日本にもそういう馬がいたが、つまりは何かとお騒がせなのが、マイトバイトといふ競走馬なのだ。

その後のマイトバイトは真面目な競馬を続けており、昨シーズンの最終戦となつたエイントリーのG1マイルドメイノーヴィスチャイブ(芝25F)では、ウイスパーに2

馬身差をつける快勝。今季初戦となつたサンダーウィンのLRインターメディエイトチャイブ(芝24F 37Y)を8馬身差で制した後、G1キンギングジョン6世(芝24F)で3度目のG1制覇を果したのである。

同馬を管理するのは、チャルトナム・フェスティバル歴代最多勝調教師のニッキー・ヘンダーソンだが、彼はマイトバイトに関して、こう語つている。「ゴールドCの本命に挙げられるに相応しい馬だ。だが問題は、最終障害を無事に飛び、ゴールまで真っ直ぐ走ってくれるかどうかだね」。

3月16日のG1「ゴールドC」に、皆様もぜひご注目いただきたい。